図書館の窓から

冬

2015.1 No.147



絵本原画「赤神と黒神」より　©丸木位里

【特集記事】

◆私の一冊　　長岡市文化財審議委員　原 武嗣 さん …… ３ｐ

◆中央図書館　テーマコーナーの紹介
「“テーマコーナー”で本を選びませんか？」……４～５ｐ

館長通信

「図書館総合展」参加雑記

11月５日～７日、横浜市のパシフィコ横浜を会場に開催された第16回図書館総合展に参加してきました。この展示会は、公共・大学・機関・企業・小中学校などすべての図書館についての最新技術やサービスを紹介する日本最大のイベントです。

期間中には、「書店と図書館」「図書館による出版ビジネス活性化」「公共図書館の電子書籍サービス」など、約90のフォーラムが開かれたほか、会場では、書籍自動貸出返却装置といった最新機器や音と香りを使った快適空間、多機能な検索閲覧システム、電子書籍サービスなどが紹介されていました。

平成22年の電子書籍元年は、「電子図書館元年」とも呼ばれていますが、スマートフォンの普及や電子書籍点数の増加を背景に再び電子図書館が注目されている話は興味深いものでした。

電子書籍には、コンテンツ数や機能面などの課題も多くあります。しかし、そのメリットを考えると、今後、情報収集や調査を怠ってはいけないと思っています。（金垣 孝二）

文書資料室だより

文書資料室所蔵「小金井良精資料」から ～ベルツの手紙～

文書資料室所蔵の「小金井良精資料」1,574点は、長岡市史編さんの際に東京大学医学部より寄贈を受けたものです。平成26年度新潟県立歴史博物館秋季企画展「日本人類学の黎明～小金井良精資料を中心に～」では、当室所蔵資料の中からも、書簡や研究にまつわる多数の資料が選ばれ、展示されました。

良精は幕末の長岡藩に生まれ、幼少時に戊辰戦争を経験しました。戦後すぐに上京して後の東大医学部に入学。明治13年（1880）に首席で卒業し、ドイツへ留学して解剖学を学び、帰国後は日本人初の解剖学教授となりました。

エルヴィン・ベルツ（Erwin von Bälz）は、明治９年にドイツから東大医学部教授として招かれ、日本の医学界に多大な影響を与えた人物です。29年にわたる滞在中、日本人女性と結婚し、恙虫病研究のため長岡を訪れたこともありました。『ベルツの日記』には、彼が過ごした明治期の日本の様子が詳細に綴られています。

二人は長く交流を続けてきました。ベルツ帰国後の明治45年12月12日付、良精宛の手紙が残っています。明治天皇の死後に自ら命を絶った乃木希典の行為が欧州でも話題になっていると記し、当時の日本におけるその行為の意味や、日本人の精神性などにも言及しながら、自身の見解を率直に述べています。

この手紙の８か月後、ベルツは64歳で亡くなります。人生のおよそ半分を日本に暮らし、日本の医学界のために尽力したベルツ。日本への思いを込めた最後の言葉が、良精宛に綴られているのです。ベルツと日本、ベルツと良精について考える時、この手紙の持つ意義は大きいといえるのではないでしょうか。

ベルツの手紙は文書資料室で閲覧することができます。

（桜井 奈穂子）



▲良精宛　ベルツの手紙
（明治45年12月12日付）
文書資料室所蔵

私の一冊



『なぜ私だけが苦しむのか』
H. S. クシュナー／著
斎藤 武／訳
岩波書店

長岡市文化財保護審議委員

原 武嗣 さん

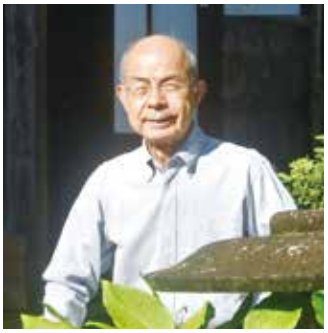
「14歳の誕生日の２日後に、アーロンは死んでいきました」と著者のユダヤ教・教師は語ります。哲学者西田幾多郎も幼い娘を亡くされ、「死ぬるは人生の常である。死んだのは我が子ばかりではないと思えば、理に於いては少しも悲しむべき所はない。併し人生の常事であっても悲しいことは悲しい」、「哲学の動機は深い人生の悲哀でなければならない」と述べられています。

「なぜ？」に「答え」はあるのでしょうか？　著者は、「答え」が、納得のいく「説明」という意味であれば、満足のいく答えは多分見つからない、しかし、「応答」という意味であれば、たぶん満足のいく答えが見つかる、そのとき、どうして起こったのか、ではなくなり、どのように応答すればよいのか、こうなってしまった今、なにをするのかを問うことになったのです、と。

私が高校２年生だった1956年の１月１日、弥彦神社二年参りで124名が亡くなるという事件が起き、そのなかに父と兄とがいました。だれでも、不安と孤独と闇の中に投げ出され、「なぜ？」と問わずにはおれないことがあります。だからこそ、「答え」を求めます。それが科学、文・芸、哲学、宗教などの歴史でしょう。しかし、限りある私に「説明」は見出せません。

「なぜ？」の叫びは、仏典には〈偉提希（いだいけ）〉の、聖書には〈ヨブ〉の、〈イエス〉のことばとしても記されています。約2,500年前、ゴータマ・ブッダ（釈尊）は80歳の最期に、「もろもろの事象は過ぎ去るものである。怠ることなく修行を完成なさい」と弟子に告げました。

今日のごとく明日もあると思う自我は砕かれ、「遺された者=私」は絶対的受動性の逃れられない服従のうちに、意に反して存在しています。その苦悩を介して、あるとき、「先に逝った者=彼（他者）」の呼びかけを聞きます。…人は死すべき《命》を生きている、また、量り得ない《いのち》のうちに生きている、それで良い、生きよ、と。哲学者レヴィナスは次のように述べています。…何者かたるように呼びかけられ、しかもこの呼びかけを回避しえない者、それが主体である。この応答は、絶対的に異質な「呼びかけ」に応える応答である。私の内奥全体が、「私の - 意に - 反して - １人の - 他者の - ために（他者の代わりに）」に転じる。こうしてはじめて、私の唯一性は有意味なものと科す…。知らぬ間に「彼」の《ひかり》に照らされ、量り得ない《いのち》のはたらきのうちなる「私」に気づきます。「ありがたい」は、「みずから」の、また「おのずから」の応答なのだと思います。



原 武嗣（はら・たけし）
1938年長岡市生まれ。64年東北大学工学部大学院工学研究科修士課程修了。大学卒業後、家業の大工用鋸製造に従事する。98年４月より長岡地方裁判所家事調停委員を10年余務める。03年に大谷専修学院本科卒業。現在は、長岡市文化財保護審議委員、長岡西病院ビハーラ病棟ビハーラ僧（ボランティア）、長岡市美術協会員（日本画）。

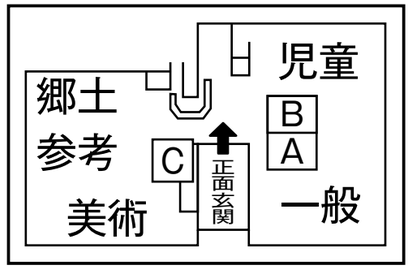
どんな本を読もうか迷ったら・・・

“テーマコーナー”で本を選びませんか？

中央図書館では、あるテーマに沿って本を集めたテーマコーナーを３か所に設置しています。
季節や図書館行事に合わせたテーマ、おすすめの本など切り口は様々です。
各テーマの展示は約２ヶ月ごとに変わります。ぜひお立ち寄りください。



館内図



←場所はこちら

●一般テーマコーナー・・・A
●児童テーマコーナー・・・B
●参考テーマコーナー・・・C

一般テーマコーナー

入口を入って右手、大きな看板が目印です。
小説･実用書を中心に、様々な展示を行っています。普段は手に取らないジャンルの本との､新たな出会いがあるかもしれません。
本選びの参考にご利用ください。

１月のテーマ

「わたしのお気に入りの一冊」

みなさんから募集したお気に入りの一冊を､コメント付きで展示中です。





『左足のポルカ』
手島 織江／作　倉部 今日子／絵　偕成社

主人公はなんと左足！！崖から落ちた少年とともに死ぬはずが、左足だけ生きのびたのです。左足が義足として働いたり、南極へ大冒険をしたり、とってもおもしろいお話です。（紹介者のコメントより）



『サクリファイス』
近藤 史恵／著　新潮社

自転車ロードレース競技中におきた悲劇は、本当に事故だったのか？レースの心理戦と共に駆け抜ける疾走感がたまらない。ロードレース・ミステリー。（紹介者のコメントより）

児童テーマコーナー

家族で楽しめる絵本や物語、工作･自然など幅広く紹介しています｡季節に合わせたテーマも多いので、読み聞かせにもおすすめです。
テーマごとのブックリストも用意していますので、ぜひご覧ください。

１月のテーマ

「ひつじ年」

今年はひつじ年。
干支の絵本を集めました。





『まりーちゃんとひつじ』
フランソワーズ／文・絵　与田 準一／訳　岩波書店

まりーちゃんとひつじの“ぱたぽん”は、とっても仲良し。「まりーちゃんとひつじ」「まりーちゃんのはる」の二編が収録されています。



『しりたがりのこひつじ』
エリック＝カール／絵
アーノルド＝サンドガード／文　工藤 直子／訳
偕成社

知りたがり屋さんのこひつじには、知りたいことがいっぱい！こひつじとちょうちょのユーモラスなやり取りが楽しいお話です。

参考テーマコーナー

郷土資料・参考図書・美術書コーナーの蔵書の中から展示しています。
図書館で開催した展覧会や講座、また県内の美術館･博物館で開催中の展覧会に関連したテーマ展示も行っています。

１月のテーマ

「酒を愉しむ」

お酒を様々な角度から楽しんでみませんか？





『うま酒温泉へようこそ　関東甲信越篇』
江口 まゆみ／著　平凡社

“酒紀行家、酔っぱライター”である著者が温泉の近くにある酒蔵やワイナリーを巡ったガイドブック。寒い冬にぴったりです。



『日本の大吟醸一〇〇』
藤田 千恵子／著　新潮社

全国各地の酒蔵の大吟醸が、詳細なデータとともに100種類紹介されています。蔵元の特徴や杜氏のことまで丁寧に解説された一冊。

※これまでに展示したテーマは図書館ホームページでもご覧いただけます

所蔵資料紹介　№143　秋山景山　画　　宝珠図

秋山景山（1758～1839）は、江戸時代中期の宝暦８年に長岡藩士秋山貫平の子として生まれ、明和４年（1767）に家督を継ぎました。

名は朋信、通称は多門太、景山は号です。景山の年譜を見てみると、何度も「奇特思し召され」とあります。学問や弓術など、行いが良いため藩主から褒められているのです。

文化５年（1808）９代藩主忠精により創設された長岡藩校崇徳館で、景山は藩士の教育の向上にあたります。同12年　都講（教授の統括者）に任命され、一層藩士の指導に尽力しました。そして天保２年（1831）に忠精が亡くなると、形見として羽織を貰い受けます。

その後忠精の子、忠雅が10代藩主を継ぐと、景山は藩主の求めに応じて崇徳館についての由来や現状を報告しています。

この作品は「天保癸巳孟春吉旦　景山試毫」と記してあることから、天保４年（1833）の元旦に、75歳の



景山が筆を染めたものとわかります。どんな願いも叶えるといわれる「如意宝珠」をのせているのは、長寿の象徴として尊ばれた熨斗アワビです。この軸物は牧野家に由来があることから、景山が新しい藩主の忠雅に贈ったものなのでしょうか。

学問をとおして藩士を育ててきた景山が放つ、豪快な筆さばきは、180年の時を経ても私たちの心に迫ってきます。　　（小熊よしみ）

越後文学さんぽ　～新潟出身の作家をクローズアップ～

新井　満（あらい・まん）（1946－）

新潟市出身。上智大学法学部を卒業後、株式会社電通に入社。ＣＦプロデューサー、環境ビデオを制作を経て長野五輪のイメージ監督を務める。74年からシンガーソングライターとして活躍。86年より小説も書き始め、87年『ヴェクサシオン』で野間文芸新人賞受賞。88年『尋ね人の時間』で第99回芥川賞受賞。03年発表の写真詩集『千の風になって』はロングセラー。主な著書に『カフカの外套』『森敦 - 月に還った人』新潟関連では『自由訳良寛』『髭とパラソル』などがある。（参考：『新訂　作家・小説家人名事典』日外アソシエーツ、『ふるさとの夕陽なつかし』新潟日報事業社）



『尋ね人の時間』
文藝春秋

今回紹介する１冊は、「水母」と第99回芥川賞受賞作品「尋ね人の時間」が収められた作品集です。両作品とも、広告業界中心に活躍するカメラマン、神島の物語です。彼の職業柄もあるのか、心象風景が実に映像的に描かれており、読者の感覚に直接響いてきます。出てくる話題もなかなかおしゃれです。倉庫街での写真展、別れた女に薔薇百本おくる男、サークルの打ち合わせ会場にラブホテルを使う女子大生、など、バブル期という時代背景も感じさせます。

この本のタイトルは、終戦直後に放送された人捜しのラジオ番組と同じです。では、神島の尋ね人は誰なのか。作品中で紹介されている、フランスの老人たちのダンス、１歩進んで２歩下がるリゴドンダンスでも踊りながら、過ぎ去った過去に答えを捜しに行きましょうか。リゴドン、リゴドン。　　（徳永　馨）

鬼

今回は、２月の節分にちなみ「鬼」をテーマとしました。

中央図書館の美術・参考・郷土・一般の各ジャンルから、関連本を紹介します。

知れば知るほど奥深い「鬼」。冬の夜長に、じっくりと読んでみてはいかがでしょうか。



『鬼瓦　ルーツを尋ねて』
玉田 芳蔵／著　東京書籍（美術751.4タ）

鬼瓦は恐ろしい顔ばかりではありません。それぞれ実に個性的な顔をしています。著者は退職した後、「鬼瓦に呼びとめられたような気がして」研究を始めました。そのルーツ探しは日本を越え、アジア、ヨーロッパへと広がる壮大なものとなりました。素晴らしい鬼瓦の世界をどうぞ。（熊倉 弘美）

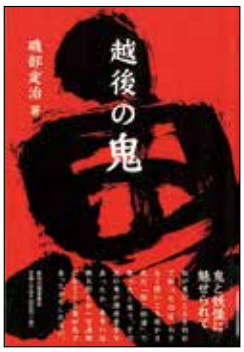


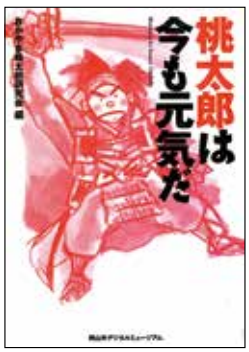
『夜窓鬼談』石川 鴻斎／著
小倉 斉　高柴 慎治／訳註
春風社（参考388.1イ）

明治20年代に漢文体で書かれた原作が現代語訳されて出版されています。鬼だけではなく、天狗や古狐、貧乏神から七福神、さらに妖怪や幽霊までと、著者が諸国漫遊して集めたり創ったりした奇妙でふしぎな話が90編近く収められています。話はもちろん、味わい深い挿絵もお楽しみください。（徳永　馨）

『越後の鬼』磯部 定治／著　新潟日報事業社（郷土N388イ）

越後の鬼として有名な茨木童子は栃尾地域の軽井沢に生まれたと伝えられています。知恵、力量とも人並み外れた茨木童子は、民衆を苦しめていた時の権力者に抵抗し庶民の味方という存在であったそうです。本書は茨木童子をはじめとした越後に残る鬼の足跡と伝説を訪ねた記録です。庶民に語り継がれる鬼とは何だったのか、恐ろしさとともにユーモラスな一面を持つ鬼の魅力を紹介しています。（井口 麻子）





『桃太郎は今も元気だ』おかやま桃太郎研究会／編
岡山市デジタルミュージアム（現：岡山シティミュージアム）（一般388.1モ）

鬼にまつわる御伽噺といえば、桃太郎。ここでは、桃太郎三大伝説地と言われる岡山県、香川県、愛知県での桃太郎伝説の紹介、鬼の住処である鬼ヶ島についての解説、各地で異なるお供やストーリーについても記されています。本書を読んでから『桃太郎』を読み直してみませんか。（若月　綾）

＊「図書館の窓から」内で紹介した本は、中央図書館一般コーナー入口付近に展示しています。ぜひご利用ください！

イベントガイド（１月～３月）　※全て参加無料

【論語を読む】　中央図書館２階　講堂　14:00～16:00

長岡藩の教育の基本となった「論語」を読み、解説します。

１/24（土）講師：今井雄介氏（長岡郷土史研究会顧問）

定員：180人　申込：１月11日（日）～　窓口・電話・ＨＰで受付

【映画会】　中央図書館２階 講堂　14:00～　申込不要

１/14（水）「バルカン超特急」（1938年 イギリス）94分

１/25（日）「家で死ぬということ」（2012年 日本）88分

２/６（金）「センス・オブ・ワンダー　レイチェル・カーソンの贈りもの」（2001年 日本）107分

３/11（水）《東日本大震災関連ドキュメンタリー２本立》

「生き抜く 南三陸町人々の一年」（2012年 日本）99分

「ニッポンの嘘　報道写真家 福島菊次郎90歳」（2012年 日本）114分

３/21（土）「兎の眼」（1978年 日本）92分

【特別図書整理に伴う長期休館と貸出点数変更のお知らせ】

長期休館に伴い、2/1（月）～2/16（月）の間、貸出点数を20点（内、視聴覚資料は６点まで）に拡大いたします。ぜひ、ご利用ください。

館　名	休館する期間	新システム開始日
中　央	2/16（月）～ 2/28（土）	3/ 1（日）～
互尊文庫 西・南・北	2/17（火）～ 2/23（月）	2/24（火）～
中之島・寺泊 大河津・栃尾	2/16（月）～ 2/23（月）	

この特別図書整理期間を利用し、長岡市の図書館は新システムに移行します。セルフ貸出機の導入や、地域館への利用者開放インターネット端末の設置などのサービスが加わり、より便利にお使いいただけるようになります。詳しくはHP等でお知らせします。お楽しみに！

図書館ニュース

◆次の文芸講演会のテーマは‘脳’◆

寺泊出身の医学博士から学ぼう！

いくつになっても
若々しく生きるための
脳の強化法　７つの秘訣

－脳は、身体の中で唯一未熟な状態で生まれ、100歳になっても尚未熟な臓器－

脳が衰えてゆく原因は、年齢を理由にやりたいことをやめてしまったり、成長する脳の性質を知らずに日常生活を過ごしてしまうことです。人生100年を前提に、毎日の脳習慣に向き合う脳の強化法とは？生き生きと老いない脳の秘訣とは？ベストセラー『脳の強化書』の著書で、１万人以上の脳診断をしてきた医師・医学博士の講師が語ります。

新たな年度に向けて、脳を鍛えてみませんか？

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

期日：３/29（日）14:00～15:45

場所：中央図書館２階　講堂

講師：加藤 俊徳氏（医師・医学博士）

定員：180人（先着）

申込：３/11（水）～

中央図書館窓口・電話・ＨＰで受付

名　称	電　話	休　館　日
中央図書館	32-0658	毎週月曜日（祝日の場合は翌日） 毎月の末日（土日祝と重なった場合は開館） 特別図書整理期間（上の表を参照）
互尊文庫	35-7981	毎週木曜日（祝日の場合は翌日） 毎月の末日 特別図書整理期間（上の表を参照）
西地域図書館	27-4900	
南地域図書館	30-3501	
北地域図書館	22-7100	
中之島地域図書館	61-2165	毎週月曜日（祝日の場合は翌日） 毎月の末日 特別図書整理期間（上の表を参照）
寺泊地域図書館	75-5159	
寺泊地域図書館 大河津地区図書室	0256- 97-2497	
栃尾地域図書館	53-3005	
文書資料室	36-7832	互尊文庫と同じ
栃尾美術館	53-6300	毎週月曜日（祝日の場合は翌日） ※展示替等による臨時休館あり

≪所蔵資料　出品情報≫

◆田中卓峰　風景画２点→新潟県立近代美術館「郷土に残る小山正太郎と不同舎の画家たち」展
【会期】平成27年１月４日（日）～３月１日（日）

◆横山操「昭和新山」→兵庫県立美術館「阪神・淡路大震災から20年 第１部 自然、その脅威と美」展
【会期】平成27年１月17日（土）～３月８日（日）

平成27年１月１日発行
編集・発行　長岡市立中央図書館
住　所　新潟県長岡市学校町1-2-2
編集員　長瀬 貴子　山本 祐子　諏佐 志保
大関 健人　高橋 知香　若月　綾
メールアドレス　lib@city.nagaoka.niigata.jp
HPアドレス　http：//www.lib.city.nagaoka.niigata.jp
印　刷　北越印刷株式会社